

再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業名	一般国道15号 <small>かまたえきしゅうへんせいび</small> 蒲田駅周辺整備		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自： <small>とうきょうとおおたくみなみかまたいっちょうめ</small> 東京都大田区南蒲田1丁目 至： <small>とうきょうとおおたくひがしろくごういっちょうめ</small> 東京都大田区東六郷1丁目			延長	0.98km	
事業概要 本事業は、国道15号と環状8号線が交差する南蒲田交差点を立体化し、平行して進められている京浜急行電鉄の連続立体交差事業による踏切の除却と合わせて蒲田地区の渋滞緩和を図るとともに、沿道環境の改善、京急蒲田駅東口駅前広場の整備と連携して公共交通機関の利便性向上・利用促進及び空港アクセス機能の強化等を目的とする事業である。						
H13年度事業化	S20年度都市計画決定 (H13年度都市計画変更)	H13年度用地着手	H16年度工事着手			
全体事業費	約303億円	事業進捗率 (令和2年3月末時点)	約99%	供用済延長	0.5km	
計画交通量	36,900~46,700台/日					
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 1.3 (残事業) —	総費用： (残事業)/(事業全体) -/473億円 事業費：-/464億円 維持管理費：-/8.6億円	総便益： (残事業)/(事業全体) -/604億円 走行時間短縮便益：-/400億円 走行費用減少便益：-/194億円 交通事故減少便益：-/10億円	基準年： 令和2年		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.3~1.3（交通量 ±10%）【残事業】交通量：B/C= - 事業費：B/C=1.3~1.3（事業費 ±10%）事業費：B/C= - 事業期間：B/C=1.3~1.3（事業期間±20%）事業期間：B/C= -						
事業の効果等 (1) 交通渋滞の緩和 ・国道15号の通過交通が立体部に転換し、環状8号線と交差する南蒲田交差点の混雑が緩和。 (2) 安全性の向上 ・死傷事故発生件数は、立体開通前後で約4割、事故類型別では追突事故が約6割減少。						
関係する地方公共団体等の意見 ・東京都知事の意見 本事業は、混雑していた京急蒲田駅周辺の交通渋滞の緩和に大きく寄与している。 また、沿道環境の改善や駅周辺のまちづくりとの連携による利便性向上の観点から、事業の必要性は極めて高い。 このため、必要な財源を確保し、早期完成に向け、関係機関との協議を速やかに実施し、事業を推進されたい。 さらに、事業実施にあたっては、コスト縮減を図るなど、より効率的な事業推進に努めること。						
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を了承する。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に変化が見られない。						
事業の進捗状況、残事業の内容等 当該事業の用地取得率は100%（平成25年度取得完了）。 地下立体部（延長約0.5km）は平成24年12月に4車線開通済み。 側道部、電線共同溝工事等を実施。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 構造変更及び関係機関協議等により事業期間を3年延伸（令和6年度完成）						
施設の構造や工法の変更等 擁壁構造等の変更を実施（事業費9億円増）						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。					

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。